

ビジョン

(目指す社会像)

ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる社会

人には、たくさんの可能性があります。

しかし、環境や周囲の人との関係性のなかで可能性が閉ざされ、本来持つ可能性を発揮できない若者に出会うことも多くありました。

そんな背景から、「周囲の人の手を借りて、自分なりの一歩を踏み出せる」という意味をこめました。生きていくなかで嬉しいことも辛いこともありながらも、「まあ、大丈夫かも」と思えるような。それが、「自分の未来に希望を持てる」ということだと思っています。わたしたちは、若者がどんな境遇にあったとしても自分の未来に希望を持てる社会をつくります。

ミッション

(D×Pが成すべきこと)

ユース世代を孤立させないために、 セーフティネットと機会を創出する

ユース世代（13-25歳）の若者が自らの境遇に左右されずに自分の未来に希望を持つためには、「安心して日常生活が送れること」と、「本人なりの一歩が踏める機会」が必要です。そのために、困難な状況にあるユース世代に「セーフティネット」と「機会」の両方を創出します。

D×Pは、若者が今いるところに自らの足でおもむき、公的支援も民間支援も手が届かない場にセーフティネットの網の目をつくります。眼の前にある喫緊の課題を解決に向けて動かし、本人なりの一歩が踏めるよう後押しします。D×Pだけで解決しようとせず、世の中にすでにある多様な機会（人、企業、地域）を活かし、つなげます。D×Pは課題のフロンティアに立ち続け、ユース世代の声を聞き、社会に発信し、ともに社会を動かします。



ロゴに込めた思い

「可能性も困りごととも両方を見つめ、ひとりひとりの若者に関わっていく」という決意を込めて。明暗のグラデーションを持ち、ともに未来へと進んでゆくイメージを伝えるために夜明け空から2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行い、社会的インパクトを出す」ことを、線の中央はユース世代と社会をつなぐ「結び目」を表現しています。このロゴマークは、2016年に制定されたロゴを元に、D×Pの活動領域の変化・ブランドイメージの変化に合わせて2021年にアップデートしました。



大阪本社 〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町1-27 ファラン天満橋33号室

東京事務所 〒107-0062
東京都港区南青山6-2-9 南青山NYKビル7F

✉ info@dreampossibility.com ① www.dreampossibility.com
✂ @npd_DxP ② www.facebook.com/npdpxp

銀行	ゆうちょ銀行 〇九九店 当座 0332445 楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724
理事	今井紀明／村中直人／入谷佐知
監事	毛受芳高
アドバイザー	辻由起子／田中宝紀／浅見清夏／東信吾／渡邊淳
顧問弁護士	高橋健
顧問社会保険労務士	和田紘子
顧問税理士	脇坂誠也
写真	西川優介
イラスト	野口綾子
デザイン	雪崩式

月額寄付
サポーター
募集中！

月1,000円からの月額寄付で
D×Pの活動に参加できます。



D×Pへ寄付していただくと、
最大約**40%**のお金が戻ってきます！

月1,000円のご寄付を1年間すると、最大約**5,000円**の控除

D×Pは、大阪府から認定を受けた「認定NPO法人」です。
認定NPO法人へのご寄付は、税控除の対象となります。
地方税も寄附金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。
詳細については、各自治体にお問い合わせください。

D×Pと、ひとりひとりの若者をご支援くださっている皆様へ
感謝を込めて。



D×P ANNUAL REPORT 2024-25



10代をひとりにしない ディービー
認定NPO法人 D×P
活動報告書 2024-25

ユース世代を孤立させないために、セーフティネットと機会を創出する

「もう人生詰んだ」と思っても、おかしくない。

D×Pで働くスタッフは、深刻で複雑な状況をひとりで抱え、立ち尽くしている若者にたくさん出会ってきました。
“もし自分がこの若者と同じ境遇だったら、自分だって「人生詰んだ」と思うだろう”
そう感じるものがたくさんありました。

一方で、なんとか生きようとする彼らの強さも目の当たりにしてきました。

D×Pは創業当初から、
「若者に否定せず関わること」
「若者のいるところに自らおもむくこと」
「この社会で生きていく方法を、若者と共に考えること」
を実践してきました。

12年間で事業のかたちは変わったけれど、ずっと変わらない思いです。
わたしたちは、公的支援も民間支援も手が届かない場にセーフティネットの網の目をつくります。
そして、若者本人が自分なりの一歩を踏めるような機会をつくります。

若者が「もう詰んだ」「しにたい」と思っても、
ふと思い出す顔のひとつになれたら、
これ以上のことはありません。

理事長 今井紀明からのメッセージ

2012年にD×Pを創業してから12年が経ちました。

2024年度は、全国 16,000 名超の若者が登録するオンライン相談「ユキサキチャット」や、大阪ミナミの繁華街にある「ユースセンター」における支援を広げました。

大阪市・奈良市・神戸市・佐賀県などの自治体との連携も増えました。大阪市では住居支援を強化する動きにもつながっています。また、ユキサキチャットで支援した子が起業したり、表彰を受けたり、就職したり…など、たくさんの嬉しいニュースも届きました。

一方、この12年のなかでもっとも財政的に苦しい年でもあり、物価高の影響を大きく受けました。物価高は若者ひとりひとりの日々の生活にも大きく影を落とし、D×Pの運営においても予算の下方修正を迫られる場面もありました。サポーターや寄付者の皆様のおかげでなんとか支援の継続ができています。

ぜひこれからも一緒に「ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会」をつくっていきましょう。



Photo by みてね基金

D×Pの取り組む社会課題

ユース世代の孤立

例えば…

児童虐待相談件数
(2023年度)

225,509^{※1}件

前年度(2022年度)より
5.0%(10,666件)増加し、
過去最多

消費者物価指数
(2025年3月)

+11.1^{※2}%

2020年と比べた場合の数値
前年同月比は3.6%の上昇

10代の自殺者数
(2024年)

800^{※3}人

前年(2023年)より
2.2%(10人)減少

困難な状況に
直面

SOSを
出しづらく
気づかれない

孤立し
選択肢が
なくなる



物価高
経済的
虐待
精神
疾患

虐待

家族の
疾患

家庭内
不和

いじめ

家に居場所がない

だれかにSOSを出したら
拒否された／より状況が悪化した

学校に居場所がない／
周囲に理解されづらい

福祉制度や奨学金の条件に
あてはまらなかった／時間がかかる

「自分でなんとかするしかない」

闇バイト／借金／食事の我慢など異様な節制／
オーバードーズ(薬の過剰摂取)や自傷行為をしてやりすごす／
(どうにもならず)自死



※1 こども家庭庁 令和5年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数 より
※2 総務省 2020年基準消費者物価指数 より
※3 厚生労働省・警察庁 令和6年中における自殺の状況 より

ユース世代を孤立させないために。
セーフティネットと機会を創出する
D×Pの取り組み

ユキサキチャット



「オンライン相談 + 給付支援」で
全国の若者を支える

p5-6へ

ユースセンター



繁華街を訪れる若者に
新たなセーフティネットと機会をつくる

p7-8へ

2024-2025 New Topics

- 会見・発表 記者会見・調査発表
- ユキサキ ユキサキチャット関連
- ユース ユースセンター関連
- 行政連携 行政連携

2024年度のハイライト

5月

- 会見・発表 大阪・道頓堀の **グリコ看板付近(通称、グリ下)に集まる若者の実態調査** の記者会見
- 会見・発表 厚生労働省で記者会見を行い、2,347人のアンケート結果を公表 匿名/SNS相談の必要性を訴え

虐待などの背景によって繁華街に繰り出す若者の存在を伝える

相談したくない理由の多くは「相談しても解決できないのでは」「困りごとを上手く伝えられないかも」という不安も

8月

- 会見・発表 「家族と長い時間いなきゃいけないのがつらい」夏休みが不安な若者たちの声を公開
- ユキサキ 株式会社ゲットイットから寄贈された22台のパソコンを困窮若年層に提供

9月

- 行政連携 グリ下に集まる若者に向けた最適な支援方法の検討に向けて、大阪市と連携協定を締結

6ヶ月間で250人が利用

10月

- ユキサキ LINEで話せるチャットボット **「AIのユキサキさん」** のテスト運用を開始
- ユキサキ **海外ルーツの若者にオンライン相談と食糧支援** を実施する事業を新規立ち上げ
- 会見・発表 「若者のお金の使い道についてのアンケート」調査結果を発表
- ユース 性の悩みが相談できる医療機関(岩佐クリニック)とユースセンターが業務提携

11月

- 行政連携 佐賀県及び公益財団法人佐賀未来創造基金と進出協定を締結

12月

- 行政連携 奈良市と連携協定を締結。奈良における子ども・若者の支援を推進
- ユース 「どうとんぼり神座(かむくら)」と連携してユースセンターの利用者へラーメンを提供
- ユキサキ **食糧支援、過去最多** を更新。単月・合計13,800食を若者に提供

32食を提供

1月

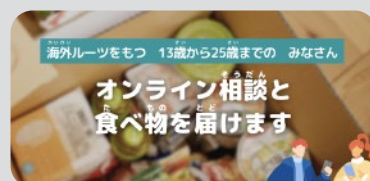
- その他 認定NPO法人アクセス・株式会社ココウェルと協働 フィリピンスタディツアー参加高校生を募集

2月

- その他 大阪マラソン2025開催。チャリティの寄付先団体に選ばれ、参加。
- 会見・発表 **闇バイトに関する調査** を実施、512名から回答を得る(2025年4月公開予定)

新事業 海外ルーツの 若者へ

海外ルーツを持つ若者にむけてやさしい日本語を使ったLINE相談と食糧支援に挑戦。言語や制度のハードルや、貧困や疾患など複合的な課題を前に立ち尽くす若者に出会いました。食べ物を送ると「日本社会も私を気にかけてくれている」「孤独感がやわらいだ」などの声が届きました。



今年度のデータ

関わった若者の数

5,558人

届けた若者の声

1,329人

若者への支援金額(給付支援費)

42,858,656円

※アンケート協力者数

ユース世代の実態調査

見えづらいユース世代の状況を明らかにするために、ユキサキチャットやユースセンターを利用する若者にアンケート調査を実施しました。アンケートの結果は、記者会見でメディアを通じて発表し、一部の調査は大阪市のホームページでも公開しています。今後もこうした調査を通じて、若者たちが置かれた現状を「知る機会」を作ります。

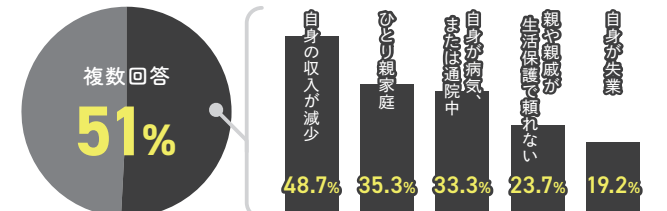
若者の3人に1人以上が借金を経験。複数の要因が重なり、その状況に至っています

「若者のお金の使い道について」(n=420)

借金経験はあるか



お金を借りた背景や周囲の状況



お金を借りた背景について、2つ以上選択している人が51%おり、あらゆる困難が複雑に重なっている状況です

若者たちに闇バイトの危険が迫っています

「裏バイトに関するアンケート」(n=512)

実際にあやしい求人を見たり誘われた経験がある

約4割

闇バイトの「経験がある・周囲に経験ある人がいる」

約1割

調査で集まったユース世代の声

認めて欲しい
わくではんだんしないほしい

(お金を借りて困ったこと)
仕事をして稼いでも返済に追われるのでなんの為に生きてるか分からなくなる

親が過保護で、家を出たいが何かと文句をつけて引き止められる。アルバイト代も親の借金、娯楽(たばこ、酒、ゲームに課金)で取り上げられてしまう。

人間関係にとても苦しんでいるからこそ、不安でたまらない。夏休みまでに死にたい、生きたいけど本当は生きていたいけど、苦しい、ごめんなさい。生きていてごめんなさい。

グリ下はいばしょであり、犯罪などにあこがれてくる場所ではないからメディアに犯罪やODをしている場所として報道しないでほしい

グリ下おるからって
おる人全員
わるい人っておうな!!

コメが高いので特売の日を狙って五キロ買います。生活のためにアルバイトをしないと疲れて授業に集中できない。何気ない生活の中で周りとの経済的格差を感じることもある。



ユキサキチャット (LINE相談)

親や周囲を頼れない全国の13～25歳に寄り添い未来と一緒に考える

ユキサキチャットとは

親や周囲を頼れない全国の13～25歳までの若者に向けたオンライン相談窓口です。関係性を構築し、食糧支援・現金給付の実施や社会資源へのつながりなど、ひとりひとりに応じたサポートを行います。

開始日	2018年
相談時間	平日10時～19時
対象	13～25歳
スタッフ	20名（業務委託含む）



ユキサキチャットに届く相談

どんな相談が届いてる？

1位	経済困窮などの生活相談	45%	(1,851人)
2位	アルバイト・就職・転職の相談	9%	(373人)
3位	進学の相談	8%	(345人)

相談員が「最近多いなあ」「気になる」と感じたケース

#多額の借金 #詐欺の被害
#滞納 #親からの経済的暴力
#成人した若者への家族・親族からの暴力
#大学生の不登校 #ホスト売掛
#ババ活 #中絶費用がない #デートDV
#障害者虐待 #宗教2世/3世

相談員の声 Pick Up

- 親からの経済的な暴力を受け、若者本人の生活改善にいたらないケースがありました。親には収入があるため、収入審査で奨学金の要件にあてはまりません。
- 成人した男性への家族からの暴力やネグレクトがありました。未成年なら児童相談所の保護を受けられますが、成人で、働くことも引越しもできない状態でした。男性の場合、DVシェルターも少なく選択肢が限られています。

データから見えるユキサキチャット

ユキサキチャット登録者数(全国の若者)

16,725人

2020年3月時点(約700人)
から約23倍増加

食糧支援数

96,660食

2020年3月時点(約4,980食)
から約19倍増加

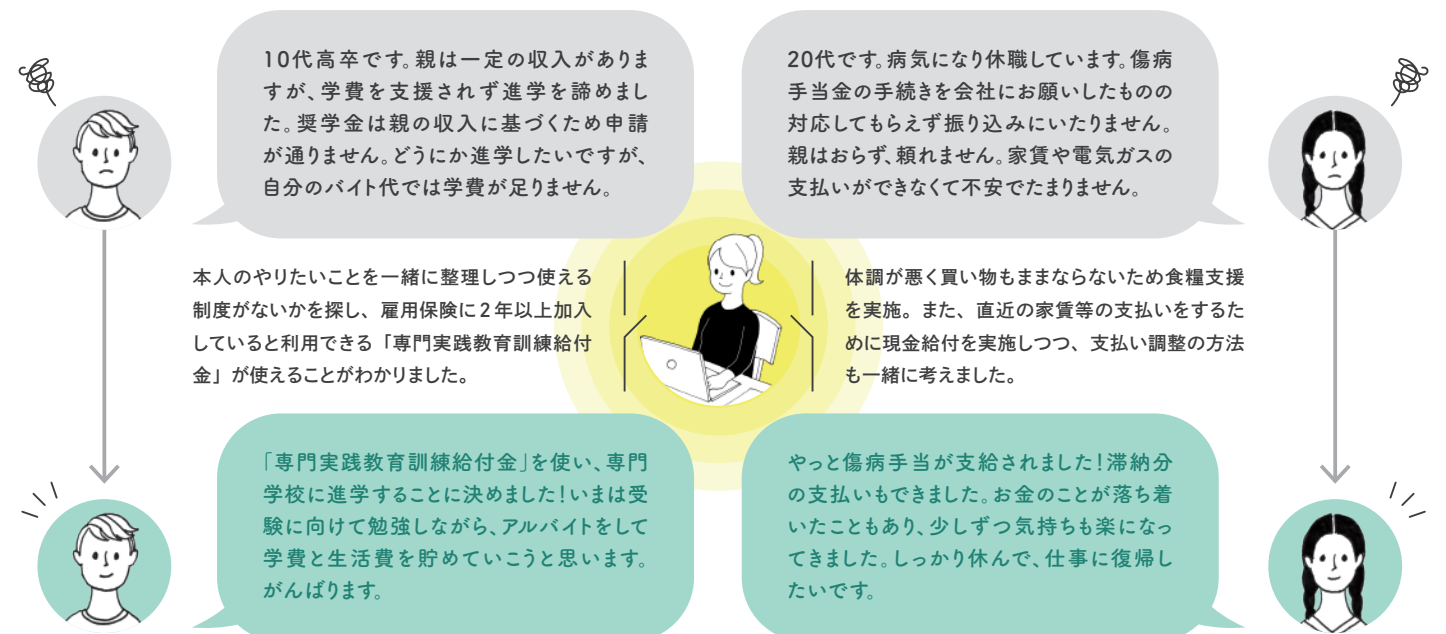
現金給付額

2,270万円

2020年3月時点(約351万円)
から約6.5倍増加

ユキサキチャットでの対応例

※複数の事例を元に、個人が特定されないよう加工してあります。



相談者からの実際の声



ユースセンター

繁華街に新しいセーフティネットと機会をつくる

ユースセンターとは

大阪有数の繁華街であるミナミやグリ下界隈で夜を過ごす13～25歳の若者を対象に、繁華街の中で安心・安全に過ごせるよう開設した居場所です。地域や行政、支援機関など様々な社会的資源への中継地になることを目指します。

開始日	2023年6月
開所時間	週2回・16時～22時（変動あり）
場所	住所非公開（道頓堀/戎橋付近から徒歩数分）
スタッフ	12名

自分のこれからを一緒に考えてくれる人とつながる

- スタッフと生活について話しあう
- 一緒に病院や自治体に行き、他の機関とつながる
- 助産師や自治体職員など専門家が来訪し相談対応

若者と社会がつながる

- 若者たちと地域のイベントやお祭りへの参加
- 若者が利用できる宿泊施設などの整備を行政に提言
- センターを利用する若者たちに関する実態調査

自分の意見が尊重される

- ユースセンターの運営・備品に対する意見を言える
- 自分の意見や声が反映される機会を提供する
- 一緒に企画をつくったり、掲示物をつくる

エネルギーをためられる

- あたたかいごはんや飲み物
- スマホの充電/仮眠/おしゃべり
- マンガ・ゲーム/音楽鑑賞や楽器演奏など

ユースセンターを訪れる若者たち

利用者の多くは、大阪を中心に関西地域から来ていますが、東京やその他の地域から来たという若者もいます。彼らの中には家庭や学校、地域の人との関わりで傷ついた経験を持ち、そこから逃れるためにグリ下下によって来ていることも少なくありません。



繁華街(ミナミ・グリ下)に来るようになったきっかけ

【出典】
大阪難波にある夜のユースセンターを利用する子ども若者の調査より(2024)

中学の時にいじめにあって、SNSで私と同じ人がいると聞いて来始めた！

友人知人に誘われた

親になぐられるから家にあんまりいたくなかった

一緒に境遇の人がいるかと思ったから

所属先がしんどい・つかれた



繁華街には若者から搾取をしようとする人間が存在したり、犯罪や金銭トラブルに巻き込まれたり、さまざまなリスクとも隣り合わせです。さらに頼れる人がいない中で、課題が複雑化・深刻化し、孤立に陥りやすい環境でもあります。

データから見えるユースセンター

ユースセンター開所回数

145回

ユースセンターのべ利用者数

7,394人

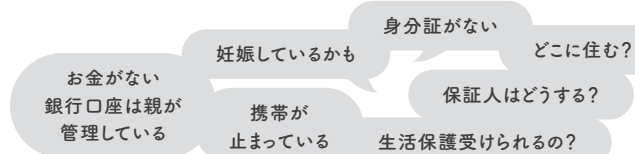
食事提供数

6,171食

社会との「中継地点」としてのユースセンター

ユースセンターを開けていない日は、困りごとのある利用者との面談や、病院・自治体などへの同行（ソーシャルワーク）をしています。また、今年度は様々な企画体験や地域イベントへの参加（ユースワーク）も行いました。

どんな相談が届いている？



2024年度は「経済状況」「住居関係」（いずれも昨年比1.5倍以上）の相談が目立ちました。

どのようなサポートをしている？

緊急サポート

妊娠や性被害、寝場所がないなどの緊急時は、支援機関と連携したり、一時的に宿泊費や食糧の給付を行っています。

個別サポート

生活の安定と心身の健康維持に向けて徐々につなぎ先を増やしていきます。支援機関への同行なども必要に応じて行います。

ユースセンターでの相談種別



個別面談回数 同行支援回数

330回 360回

※2023年4月～2025年3月までの実績

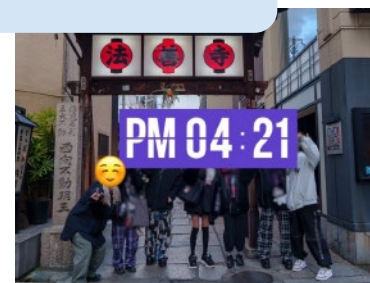
提携機関・団体(敬称略・順不同)

さくま診療所／ぬつく／岩佐クリニック／ネクイノ／Homedoor／コネクションズ大阪／小さないのちのドア／くらしサポート中央／くらしサポートなにわ／葛城・森本法律事務所 など

ユースワークの重要性

虐待や性被害など、過去に受けた様々な傷が癒えないなか、個別面談等を通して住む場所・病気・収入…など様々な課題に向き合わなければならない状況は、とても苦しいことです。

ユースセンターでは、「初詣」、「商店街の人と餅つき」、「コーヒー講座」、「餃子を食べる会」など様々な遊び企画を実施しました。休む時間・遊ぶ時間を通して、エネルギーをチャージすることも大切にしています。



若者からの声

親身になって話を聞いてくれる大人がいて、いろいろな子たちの憩いの場になっている。



やべー！ユースのカレーがどんどんレベルアップしている！

手作りのごはんを食べるのが5年ぶり

（社会に）もっと相談しやすい人が増えてほしい

パプリカがだめで食べてない

今まで食べたシチューの中で一番美味しい

2日ぶりのご飯だから、特盛してほしい

ユースみたいところ、増えてほしい



たくさんの方に支えていただきました。
 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

D×Pが、ユキサキチャットでの相談や食糧支援・現金給付支援が実施でき、大阪ミナミの繁華街でユースセンターの活動に取り組めるのは、ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。(敬称略・順不同)

 READYFOR株式会社 特定非営利活動法人青少年自立援助センター	 FIRST DOM/NO break through yourself	 山本正喜 ポリシー基金 YAMAMOTO MASAKI POLICY FUND 株式会社PoliPoli	 Policy Fund 株式会社PoliPoli	株式会社 山本真司事務所
 赤い羽根共同募金 地域の子どもたちの福祉のための助成 社会福祉法人大阪府共同募金会	株式会社 蒼江	 カニエ JAPAN	 MATSUDA We can make your life clean and pure マツダ株式会社	 ritsuan 株式会社リツアンSTC
 Hashimoto Foundation 公益財団法人橋本財団	 BEAUTY NAILER 株式会社ビューティーネイラー	 SAKURUG 株式会社SAKURUG	 LAMPS LAMPS株式会社	 Jeane 株式会社ジーン
 GET IT	 村上財団 The Murakami Family Foundation 一般財団法人村上財団	一般財団法人 日本社会支援財団	一般社団法人 教育コミュニケーション協会 代表理事 木暮太一	 ファン ファン 一般社団法人fanable
 ドラゴン教育革命 DRAGON EDUCATION REVOLUTION 株式会社ドラゴン教育革命	 茨腎会 IBAJINKAI 医療法人社団茨腎会	 土屋 株式会社土屋	 一般財団法人 チャイルドライフサポートとくしま 一般財団法人チャイルドライフサポートとくしま	 Apfel 高橋商会株式会社
 いすゞ質店 株式会社いすゞ質店	宗教法人 寶松院	一般社団法人 ソーシャルビジネスバンク	 SPICE FACTORY スパイスファクトリー株式会社	公認会計士 渡邊淳事務所 渡邊淳
 FELISSIMO 株式会社フェリシモ	 日本子ども支援協会 Japan Children Support Association 認定NPO法人日本子ども支援協会	 TWI TRANS WORLD INDUSTRIES 株式会社トランス・ワールド・インダストリー	 株式会社愛光ライフ	 SEIKI COMMUNITY GROUP 株式会社成基
 一般財団法人 りせら財団 一般財団法人りせら財団	 EBISU 株式会社戎工務店			

山田安廣	蓑田秀策	藤崎まり子	西尾伸介	植村太郎	橋本誠治	畑中洋亮
西川順	高島弥寿子	地守亮	高橋知裕	山上義人	小林明子	竹内彩子
本松慎一郎	佐俣アンリ	吉田雅一	小田玄紀	杉山大樹	永田勇貴	金田洋子
白石匡	福島保	酒井伸一郎	船井勝仁	藤田淑子	高津玉枝	

月額寄付サポーター

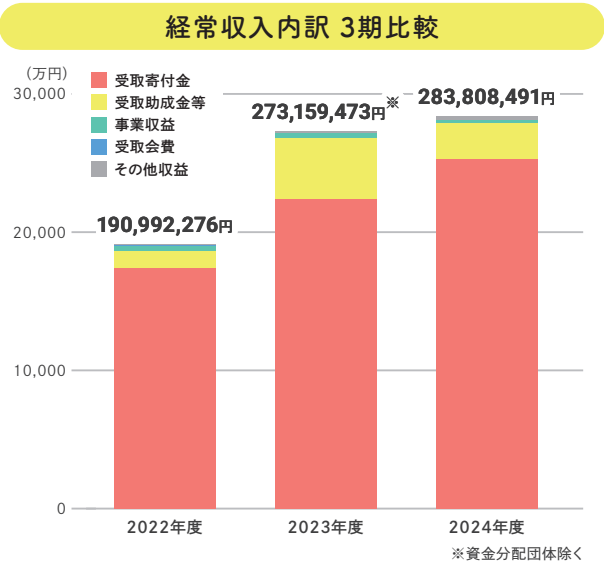
3,462人

「ひとりの小さな力も集まれば、大きな力になると思うから」「私も若い頃、苦しい時期がありました。自分にとっては、Pay it forward です。」そんな声とともに、たくさんのご寄付をいただいています。月額寄付サポーターは3,320人、法人は142社。クラウドファンディングでは2,579人の方に応援いただき、初めてD×Pに寄付してくださった方もいます。さまざまなかたちで寄せられた想いととも、25年度も活動を広げていきます。

2024年度 活動計算書
 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

科目		金額(単位:円)	
		前期 (2023年度)	今期 (2024年度)
経常収益	受取会費	55,000	55,000
	受取寄附金	223,894,728	253,157,939 ①
	受取助成金等	290,913,225	25,889,032 ②
	事業収益	3,482,154	2,424,589
	その他収益	1,073,366	2,281,931
経常収益合計		519,418,473	283,808,491 ③
経常費用	(1)事業費		
	給料手当/法定福利費	113,583,953	141,749,685 ④
	福利厚生費	728,443	1,403,218
	旅費交通費	5,844,290	6,445,839
	消耗品・備品費	3,274,641	1,304,116
	賃借料	12,093,330	11,348,414 ⑤
	通信費	5,808,664	8,017,609 ⑥
	業務委託料	52,296,544	44,558,902 ⑦
	広告宣伝費	16,569,740	28,577,124 ⑧
	支払手数料	12,606,547	23,267,954 ⑨
	会議費	1,109,925	1,578,991
	給付支援費	39,278,952	42,858,656 ⑩
	減価償却費	2,267,500	2,441,674
	支払助成金	206,784,543	0
	その他	6,902,089	4,614,959
事業費合計		479,149,161	318,167,141
	(2)管理費		
	給料手当/法定福利費	23,536,275	32,832,980 ⑪
	その他	9,651,237	17,322,023 ⑫
管理費合計		33,187,512	50,155,003
経常費用合計		512,336,673	368,322,144
当期経常増減額		7,081,800	-84,513,653
経常外収益		0	100,000
経常外費用		20,891	0
税引前当期正味財産増減額		7,060,909	-84,413,653
法人税、住民税及び事業税		70,529	76,721
当期正味財産増減額		6,990,380	-84,490,374
前期繰越正味財産額		79,152,826	86,143,206
次期繰越正味財産額		86,143,206	1,652,832 ⑬

※今年度はその他の事業を実施していません。



紙面の都合上掲載できませんでしたが、すべての勘定科目別に表記されている活動計算書（P/L）、賃借対照表、財産目録、そして監査報告書はD×PのWebサイトに開示しております。合わせてご覧くださいませ。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、認定特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。

監事 毛受芳高（一般社団法人アスパシ）
 会計監査 公認会計士 大磯毅（株式会社わかば経営会計）

受取寄附金

① 昨年度比約2,920万円の増収となっています。うち約1.1億円が定期的なご寄付です。月額寄付サポーターは 3,066人→3,462人となり多くの皆様に支えていただきました。

受取助成金

② 昨年度は約2.9億円のうち約2.4億円が休眠預金事業の資金分配団体としての事業にあたります。（アウトリーチに取り組むNPO団体等に助成する取り組みです。）今年度は類似の助成事業を行わなかったため、大幅に受取助成金額が下がっています。

経常収益合計

③ 昨年度は休眠預金事業をのぞいて実態として約2.7億円規模の組織だったため、2.7億円→今年度2.8億円の収入変化として見ています。

給料手当/法定福利費

④ 皆様からいただく寄付の多くが人件費に充てられています。利用が急増・深刻化しており、ユースセンター・ユキサキチャットともに増員しました。若者からの複雑性の高い相談を多数受け取り、幅広い専門性と業務遂行能力が求められる従業員がバーンアウトせず持続可能に働くことができるよう、今後も待遇改善を進めます。

賃借料

⑤ 繁華街にあるユースセンターの賃借料が大部分を占めています。

通信費

⑥ 主に食糧支援の発送費により昨年度より約220万円増えています。

業務委託料

⑦ ユキサキチャットの相談員の一部は、業務委託契約で相談対応を担っています。また、今年度は経営強化のため人事や政策提言などの専門家の力を借りました。

広告宣伝費

⑧ 若者へのアウトリーチを目的に今年度もLINE広告・インスタ広告などを出して周知しました。

支払手数料

⑨ ユキサキチャットを運営するためのシステムや寄付受け取りのための利用料、現金給付実施による振込手数料も含まれています。

給付支援費

⑩ 若者に送る食糧や日用品、家賃等生活費のための給付金、ユースセンターで提供した食事代などが「給付支援費」にあたります。妊娠や性病等による医療機関への受診料も負担しました。

人件費/法定福利費(管理費)

⑪ 経理・総務・労務・法務等を担う管理部門の職員数を4人→6人に増員しました。若者ひとりひとりの事情を想定し、柔軟かつ安全に対応できるバックオフィスを目指しました。

その他(管理費)

⑫ うち支払手数料約452万円、業務委託料約414万円、賃借料約187万円、支払報酬料約136万円などが主な支出です。今年度の管理費率は13.6%。D×Pでは、管理費は不正を防止し安全に運営するために必要不可欠なコストと考え、引き続き必要経費を支出します。

次期繰越正味財産額

昨年度の活動報告書では、約8,600万円を次年度に繰り越したこと、その資金を基盤として追加採用を行い現場支援の強化を行うことをお伝えしました。今年度はたくさんの方のご支援のおかげで全体の寄付額は増えたものの、物価高の影響による収入の伸び悩み・食糧価格の上昇・若者からの相談の増加や深刻化が相次ぎました。そのため、次年度に向けて確保したかった剰余金を使わざるをえない結果となったことを重く受け止めています。次年度も変わらず食糧支援などの給付支援費は削減せず、引き続き必要な支援を若者に届けることを優先していきますが、その他の経費の見直しを行うことで財政の健全化を目指します。

